

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立杉戸高等学校		Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	この10年間の取組により落ち着いた進学校の地位を固めつつあり、その姿は地域や教職員に十分認識されている。しばらく同趣旨の目指す学校像が続いているので、学校案内の冒頭に記載されている「自己肯定感を高めよう」などの言葉を生かすなど、次のステージに向けた学校像を模索していただきたい。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	「Output」「Pride」「Information」といったキーワードを軸に教職員にその趣旨を徹底し、中期的な視点から重点目標が設定されている。目指す学校像の実現に向け重点化された適切な重点目標となっており、教職員の日々の具体的な行動に結び付けられている。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	普段から教職員とのコミュニケーションを大切にして、学校運営が進められている。毎年教職員の異動がある中で、スムーズな組織運営ができる態勢が整えられている。今後はその質を高める段階に来ているため、個々の結びつきを大切にしながら取り組んでいただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	各教科の「アウトプット」方策を基に研究協議を行うなど、方策や評価指標を設定するに当たり、企画委員会や職員会議などで共通理解を図っている。前年度解決した課題については、更に上に伸ばす新たな課題を見出し、それを基にした新たな方策が設定され、実施されている。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が教職員の教育活動を良く把握した上で、組織力を高め、学校の方針を打ち立てている。校長が的確にリーダーシップを発揮し、分掌・学年・教科などが全体の目標を理解した上で、朝・夏休みの計画的な補講や教職員が授業開始5分前に教室に入ることなど、教職員全体で組織的な取組を展開している。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	進学校としての位置づけが地域からも認知され、その中で新たな取組として新しい教育課程の枠組みの検討が進められている。アンケートの内容を工夫するとともに、その結果等を詳細に分析することで新たな課題の析出やニーズを把握し、更にPDCAのスパイラルアップを図っていただきたい。	
特記事項			